



克己心身を練れ
勤勉実力を養え
至誠事に当れ

第 196 号 令和 7 年 7 月 24 日 (木) 静岡県立富士高等学校
<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/fuji-h/home.nsf>

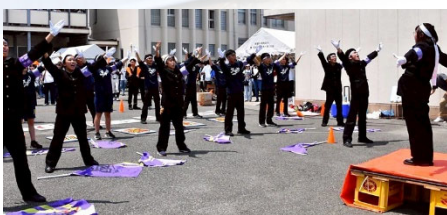
静岡県富士市松本 17 番地
 電話 (0545) 61-0100

「令和 7 年度 富嶽祭に参加して」

富士高 PTA 副会長 寺井 寿典

6 月 1 日 (日) の文化の部、2 日 (月) の体育の部に保護者として参加させていただきました。富士高生の皆さんの明るく元気な姿に触れ、充実した 2 日間を過ごすことができました。

文化の部では、野球部が東海大学を迎えて招待試合を行い、白熱したプレーに胸が高鳴りました。応援団の力強い応援が選手たちの背中を押し、会場全体が一体となるような盛り上がりを見せていました。中庭では歌やダンスが披露され、笑顔と歓声があふれる楽しい空間となっており、生徒の皆さんが自分らしさを存分に発揮している様子が印象的でした。教室での展示や企画も丁寧に作りこまれており、どれも見ごたえがありました。



体育の部では、1・2 年生による富士高体操の美しく揃った動きに感動し、3 年生の浴衣姿での民謡には、最上級生としての落ち着きと風格を感じました。クラスリレーや長縄跳び、応援合戦も大いに盛り上がり、仲間と力を合わせて全力で取り組む姿がとてもまぶしく見えました。

生徒の皆さんが主役となり、仲間とともに築いた富嶽祭は、見る側にもたくさんの感動を与えてくれました。この素晴らしい行事の運営に携わった先生方、生徒の皆さんに心より感謝申し上げます。



「Let's go 富嶽祭」

富士高 PTA 副会長 宮内 幸代

今年も第69回富嶽祭が盛大に行われました。

6月1日は文化の部の一般公開です。正門を潜ると、他校の生徒や保護者の方々が大勢訪れており、賑やかな雰囲気に包まれていました。



屋外には運動部が出店している模擬店が並んでいます。チュロス、ポテト、肉巻きおにぎり、クレープ、かき氷など、お客さんをお呼び声が飛び交い、歩いているだけでテンションが上がります。

どのお店も大繁盛で行列が出来ていました。

まずは息子のいる模擬店へ。

カップに入った水泳部のチョコバナナ。カップに入って食べやすい。他にも山岳部のホットサンドは、段ボールで作ったオーブンで一人分ずつ焼いてくれるので熱々でした。

それぞれに工夫を凝らしていて、見ても食べても楽しめました。

中庭では個人発表で、アクロバティックな縄跳び、ギターの弾き語りなど、校舎の中では、ゲーム、謎解き、展示、ステージなど、盛り上がっていました。



6月2日も朝から晴天に恵まれ、体育祭日和でした。

私が行った時には、1, 2年生による富士高体操が行われていました。この独特な体操は昔からの伝統の体操なのだと聞きました。久しぶりに見て、懐かしそうの方もいらっしまったのではないのでしょうか。印象的だったのは、どんな競技も応援も盛り上がっていたことです。

1つ1つを思い切り楽しむ力を見せていただきました。生徒の皆さん、三日間お疲れ様でした。また来年も楽しい富嶽祭が行われますように、心から願っています。

本校では県教育委員会「行きたい学校づくり」推進事業医療人材育成指定校となったことを受け、令和6年度から医療人材育成プログラム「FUJIKO Med.」を開始しました。

「FUJIKO Med.」では医学科・看護学科・薬学科への進学を志望する生徒を対象に、大学や病院の訪問、現役医師を招いての医学セミナー、医学科受験に向けた特別講座などを実施しています。昨年度は、浜松医科大学や富士市立中央病院を訪問し、体験実習を通して大学での研究や医師・看護師の仕事について具体的に学ぶことができました。

今年度は昨年度の実施内容に加え、医療と工学との関わりを研究するため、医療機器メーカー「テルモ株式会社」の研究施設訪問を新たに行うほか、静岡県東部の医療拠点の一つである順天堂大学医学部附属静岡病院と連携協力し、施設見学・実習や人材交流などを行っています。

先日、連携協力に関する打ち合わせのため、同病院を訪問しました。打ち合わせの後、施設を見学させてもらいましたが、病棟屋上のヘリポートでドクターヘリの雄姿を眺めることができました。同病院のドクターヘリの出動件数は年間1000件を超えますが、これは全国の病院で2番目に多い件数です。出動件数の多さは、山で分断された地形や高度の医療設備を備えた病院が少ないといった伊豆半島の地域特性と関わりがありますが、同病院で運航を開始した2004年以降、ドクターヘリにより多くの命が救われてきました。私がドクターヘリを眺めている間にも出動要請が入り、目の前で飛び立っていましたが、機体には「JAXA」のロゴが輝いていました。

「JAXA」と言えば、宇宙事業開発のイメージが強いですが、ヘリコプターについても航空技術部門で研究開発を行っています。現在は時速500km（従来の2倍の速度）を目指す高速ヘリコプターの開発を行っており、これがドクターヘリに実装されると、既存の台数で日本国内の9割以上を15分以内でカバーできるようになります。現在のカバー率が約6割ですから、高速ヘリの実用化によって、拠点となる医療施設を増やすことなくさらに多くの命を救うことが可能になるわけです。

医療の現場で処置を行うのは医師や看護師ですが、患者を搬送する手段、病棟の設備や医療機器の開発には工学の分野が関わってきます。設備・機器の高度化は救命率の向上や医療従事者の業務負担軽減につながります。医療と工学の関わりを学ぶことで医師不足解消に向けた新たな視点を獲得できるかもしれません。今年度の「FUJIKO Med.」のプログラムを通して、医療人材育成に加え、医療現場を支える志を持った技術者の育成にもつなげていければと考えています。

各学年部より

1 年 学年主任 市川 和久

富士高校にご入学されてから、早くも4ヶ月が経とうとしています。怒涛のように過ぎ去った1学期もようやく終わり、夏休みでひと息つかれている頃でしょうか。富士高校での3年間はあっという間です。勉強に部活動に、悔いのない高校生活を駆け抜けてほしいと心から願っています。

今年度、1年生のスローガンとして、本校の校訓の一つである**「克己 心身を練れ」**を選びました。このスローガンには、富士高での3年間で一人ひとりが大きく飛躍するために、まずは1年生のうちに確固たる基礎を築くことが何よりも大切である、という思いが込められています。文武両道の校風に、1学期は戸惑った生徒も少なくなかったかもしれません。しかし、精神的にも体力的にも自身の殻を破り、秘めたる可能性を引き出す土台をこの1年でしっかりと作ってほしいと考えています。もちろん、最初からすべてがうまくいくとは限りません。何度も失敗と反省を繰り返す中で、現状の自分の力を見極めることで、自分に本当に必要なものが見えてくるはずです。

積極的に学び、より高い目標に向かって挑戦する心を身につけてください。それが、皆さんの将来の選択肢を大きく広げることに繋がります。「克己」とは、自身の弱さと向き合い、それを克服する努力。そして「心身を練れ」には、学力だけでなく、精神力や体力を鍛え、バランスの取れた成長を遂げてほしいという強い願いが込められています。

今年の1年生は欠席者が非常に少なく、挨拶の声も大きく元気な学年です。その素晴らしい長所を活かしつつ、自分の苦手なことにも素直に向き合い、克服しようとする気持ちが加われば、まさに鬼に金棒です。1年生の皆さん！この夏休みを有意義に過ごし、自分の弱さと冷静に向き合い、感情を上手にコントロールできるよう、計画的に過ごしましょう。2学期に向けてしっかりと準備を整え、良いスタートを切れるよう応援しています！

保護者の皆様におかれましても、進路やお子様の学校でのご様子でご相談やお気づきの点がございましたら、どうぞ遠慮なく私たち教員を頼ってください。担任の先生方はもちろんのこと、私も全力でサポートさせていただきます。皆様からの声をお待ちしております。生徒、保護者、そして私たち教員を含めた**「チーム富士高校」**として、この3年間をより実り多いものにし、何よりも生徒たちの人生をより豊かにする有意義な時間にしていきたいと願っています。

学校の中核となる学年としての最初の学期が、早くも終わろうとしています。新しく学ぶ教科が増えたことに伴って学習内容や量も増え、部活動でも世代交代に伴って責任もやるべきことも増えて、昨年度以上に忙しい 1 学期を送ってきた人も多いのではないかと思います。今回は、各クラス代表の皆さんに 1 学期を振り返って感じたことや 7 月試験の反省について寄稿してもらいました。生徒の皆さんは自分自身と重ね合わせながら、保護者の方はご自分のお子様と重ね合わせながら、改めてこの 1 学期を振り返ってみてください。

2 1HR 遠藤花実

この 3 ヶ月での大きな変化は、人の前に立つ役割を任せてもらえるようになったことです。今までそのような経験をしたことがなかったため、多くの人に迷惑をかけてしまわないかものすごく不安でした。3 ヶ月経った今でも手探り状態ですが、仲間や先生方の助言をいただきながら尽力し、自分の理想の姿に少しでも近づくよう努力します。7 月模試やテストが終わり、再度勉強法や予定の立て方の見直しが必要だと気づきました。テスト勉強は 1 週間前に始め、短期記憶だけに特化した勉強をしていました。これを続けていれば受験期に必ず苦勞すると、空欄だらけの解答用紙を見て痛感しました。私にとって必要なのは行動力と継続力です。勉強習慣を定着させ、コツコツやるのが一番効率的なので、来年のためにも 2 年生のうちにその力を身につけることを目標にしたいです。

2 2HR 加藤春羽

22HR は全員で前に進もうとするクラスです。富嶽祭体育の部では沢山の 2 位を取りました。テスト前には休み時間や昼休みに勉強する人が増えました。昼休みに友達同士で世界史小テストや古文単語テストに備える様子もよく見ます。テスト前の空気づくりとしても、程よく引き締まった緊張感があります。個人的なテスト前の勉強はあまりできませんでした。原因は自分の気分屋なところだと思います。気分が乗らないからと休日の勉強がほとんどできず、テスト直前に睡眠時間を犠牲にして宿題を終わらせる羽目になりました。前々から備え、メリハリをつけてやるべきところを必要なだけ勉強できるような時間の余裕を確保しておきたいです。先のことを常に考えて動く事が大切だと身に沁みて感じた 1 学期でした。

2 3HR 山内貫誌

1 学期を通して学んだことは「人とつながる」難しさです。自分は、静岡県高等学校軽音楽大会に出場し、奨励賞を受賞しました。その過程で様々な発見と新たな疑問を得ました。この大会に、オリジナル曲で出場するのは初めての経験でした。そのため、演奏以前にエントリーに関する事務的な作業での意思疎通、助け合いの大切さと大変さを実感しました。テストの解答にも表現に関する課題を見つけました。採点する人に伝わるだろうと思い、少し言葉を抜いたら減点になってしまったということが 7 月試験でもありました。音楽だけでなく勉強における表現力も培う必要があります。より一層、「人に伝える」、「人とつながる」という意識を高く持つと同時に、部活動では、目指すべき理想像と現在地を深く見つめ、表現についての自分たちの最適解を見つけ出せるよう精進したいです。

24HR 佐野大知

今回のテストの結果は、満足のいくものではありませんでした。その大きな理由の一つが、テスト直前に大会があったことです。富士高音楽部としては久しぶりの大会出場で、全員が強い意気込みを持ち、テスト週間にも練習を熱心に行いました。その結果、奨励賞をいただくことができたため、真剣に取り組んだことには後悔していません。しかし、勉強はテスト直前に詰め込む形になってしまい、結果的に点数も満足のいくものにはなりませんでした。「大会が直前にあったから仕方がない」と言い訳している部分があります。実際には大会の練習の合間を使って勉強を進めたり、練習が本格化する前の段階から計画的に取り組んだり、できることは多くありました。次回からは、部活や他の予定を言い訳に勉強から逃げることがないようにしたいです。

25HR 加藤慶

この3ヶ月を振り返ると、学業と部活動の両立に苦労しながらも、自分なりに努力することができた日々でした。5月は、大会の関係でテスト期間にも部活動がありましたが、夜や早朝に勉強時間を確保するよう心がけ、分からない問題があったらすぐに友人や先生に質問しました。結果は思うようにいかずに悔しい思いをしましたが、その経験が自分の弱点に気づくきっかけとなり、7月はより充実したテスト期間を過ごせました。また、部活動では仲間と支え合いながら練習を重ねる中で、体力的にも精神的にも成長を実感することができました。勉強と部活動にバランスよく取り組むことは難しかったですが、達成感も大きかったです。今後も文武両道を意識し、自分に足りない部分を補いながら成長していき、限られた時間の中でやるべきことを見極めていきたいです。

26HR 中野心美

4月に担任の先生が「2年生は高校生活にも慣れて、1番高校生らしくいられる年なので、部活も行事も全力を注いで下さい。」とおっしゃっていました。この話を聞いて、今年は勉強や部活動、行事などを悔いのないよう全力で取り組み、進路に向けて先生や先輩方から話を聞き、さらに真剣に考えていこうと思いました。新しく学ぶ教科の授業も始まり、とても興味深く、学んでいきたいと思えました。テストに向けては、短い時間で集中して勉強しました。しかし、ミスも多くあり、悔しい思いも経験したので、この夏休みは苦手な教科や分野をもっと復習して、自信をもっていけるよう取り組んでいきます。2学期は高原教室などの行事があります。クラスや部活動の仲間と共に、成長する忘れられない大事な一年にしていきたいです。

27HR 大湊勘太

この3ヶ月で、勉強の難易度も宿題の量も格段に上がって負担が増え、初めはすぐに疲れていました。クラスは変わらないので見慣れたメンバーと共に学校生活を送りなんとか切り抜けることができました。今回の7月試験では、5月試験で伸び悩んで思うようにいかなかった教科を重点的に勉強しました。特に、3教科を固めようと刻苦勉励しました。次の目標は、進路実現に向けて全体的な教科の校内偏差値を上げることです。また、テストの点だけでなく、将来を見据えた目標を掲げたいです。そのために、この夏に目一杯勉強したいです。3年生になってからでは他の人も勉強するので差がつかず手遅れになってしまいます。2年生の今のうちに差をつけ、有意義な夏を送り、受験に備えたいです。

各学年部より

3 年部学年主任 佐藤 純

中学時代にコロナで制限されていた活動を取り返すかのように、高校 3 年間は部活動や探究活動に熱心に取り組んできました。そして多くの生徒が富士高校の生徒として誇りをもって内外で活躍し、伝統を受け継ぎ、さらなる発展に貢献してくれました。受験勉強に取り組む中、様々な分野で活躍した生徒たちの思いを紹介します。

「協力」

自然科学部数学班 31HR 田嶋亮大

数学オリンピックに出場し、東海地区表彰をいただきました。私は中学の頃から数学が好きで、高校では自然科学部数学班に入り毎日友人と問題を解き合っていました。その成果もあり、いつもは大学受験の勉強しかしていなかったのですが、数学オリンピックではこのような輝かしい賞をとることができました。数学は一人で解くよりも、周りの人と一緒に解き、解説し合う方が楽しい上に、良質な学びが得られます。受験や一部のスポーツにも共通しますが、本番は個人戦でも練習や準備の段階では団体戦です。団体戦を制した者が個人戦でも実力を発揮し成果を上げます。先には受験が待ち構えています、周りとは協力して乗り越えていきたいです。

「応援に託した青春」

富士高応援団長 32HR 渡邊さつき

高校に入学して二日目に初めて富士高応援団を見て、それからあっという間に最後の野球応援を迎えました。約二年の間に経験してきたことを総動員して、みんなが楽しい野球応援にすることが私の目標でした。勝つに越したことはありませんが、結果がどうなったとしてもみんなが楽しく、悔いのないものであったと感じることができているのなら成功だったと思っています。最後の役目を全うしたあとには受験しか残っていません。残された時間は少ないですが、これまで応援団に向けてきた熱量を勉強に向けて頑張りたいと思います。これまで応援団の活動を支えてくださった皆様ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

「フードドライブ実現！！」

フードドライブ実行委員 31HR 蒔田詩 32HR 野村明日香 33HR 渡邊玲実

私たちチーム「エスニックそばろどんぶり」は、昨年 12 月の富士市高校生議会で、サポート議員の方々からのアドバイスをもとに、市内のフードドライブの活性化について提案しました。そして今年の富嶽祭では、私たち自身の手でフードドライブを実現できたことを、とても嬉しく思います。

SNS やチラシを使った広報活動、小道具の制作など、ひとつひとつの家庭が楽しく、議会登壇から活動の実現まで、かけがえのない経験をすることができました。

多くの方々が協力してくださり、地域の温かさを改めて実感しました。ご協力してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

今後、フードドライブがさらに活性化して、地域ごとに自立した活動として広がり、つながりの輪がさらに広がっていく社会を、心から願っています。

「私の宝物」

百人一首部 33HR 池谷花日美

私は、高校3年間の青春全てをかけるために捧げました。上手くいかないことが何回もあり、辞めたいと思ったこともありましたが、部活動のみんなのおかげで私は最後まで頑張り続けることができました。この経験はこの先ずっと私を支えてくれる、かけがえのない宝物です。

これから受験勉強でつらくなったり、上手くいかないことがあったりすると思います。でも、私はこれまでの経験があれば、どんなことも乗り越えられる気がしています。ぜひ、皆さんもそれぞれの部活を最後までやりきってください。その先にきっと自分を支えてくれる宝物が待っているはずです。

「3年間の部活動を通して」

男子バスケットボール部 33HR 光森煌介

男子バレーボール部 34HR 秋山功成

男子ハンドボール部 36HR 田島優治

1年生は高校の部活動に少しずつ慣れてきた頃だと思います。2年生は、自分たちの代へと移り変わる中で、主体的に取り組むことの楽しさや難しさを実感しているのではないのでしょうか。

部活動で目標に向かって努力してきた経験は、3年生になって受験に向けて勉強していく際のメンタリティと、共通していることが多いです。

部活動と勉強の両立に不安を感じている人もいますが、授業や暗記など、日々の積み重ねを大切にしていれば、引退後に成績が一気に伸びる人も少なくありません。むしろ、部活動で身につけた集中力や時間の使い方は、勉強においても大きな力になります。

これまで頑張ってきたのは、日々支えてくれた家族、仲間、そして応援してくれた後輩たちのおかげです。本当にありがとうございました。

これからは、それぞれが自分の目標に向かって全力で頑張っていこう！

「課題研究を振り返って」

理数科課題研究 37HR 伊東沙良々

1年生の後半から3年生の初めごろまでの約1年間、私たち理数科は課題研究に取り組んできました。私の班のテーマは「雑草から製紙」で、身の周りの雑草を有効活用する方法について研究していました。研究を進めていく中で、限られた時間や設備でどのような実験なら実現可能かということや、実験が失敗した原因の考察など様々な困難に直面しました。また、研究発表の練習や論文・ポスター作製においてはどうすれば研究内容が分かりやすく明確に伝えられるか、ということ悩みました。ですが、こうした困難に直面するたびに班や7組の仲間たちとみんなで悩み、知恵を出し合って助け合うことで乗り越えられました。その他にも富士高校の代表として参加した県大会での貴重な経験など、授業だけでは学べないことを得られました。

このように課題研究を通して得られた学びを胸に、大学受験や残りの学校生活により一層励みたいと思います。

「苦悩と葛藤の末に」

音楽部 9-37HR 三田村亮隆

音楽部には指導してくださる先生がいません。そのため、演奏を成功させるには、バンドメンバー同士で課題を見つけ、率直に意見を交わし、改善を重ねるしかありませんでした。その過程では、曲への熱意や考え方の違いが火種となり、何度も衝突や行き違いが生じました。誰も正解を示してくれない分、どの選択も自分たちの責任で決めなければならず、悩みや葛藤は尽きませんでした、しかし、一つ一つ乗り越えるたびに、音が少しずつ変わり、確かな手応えが生まれていくのを感じました。そして、幾重にも不和と和合を重ねた末にお互いを理解し合いながら仲間と奏でた音楽や、観客との一体感に熱狂した瞬間は、何事にも代え難いほど楽しく、深く心に刻まれるものでした。富嶽大賞はその思いが伝わった結果獲れたものだと思います、この部活動に入って本当に良かったと実感しました。

こうした貴重な経験を数多く与えてくれた音楽部に、感謝の気持ちでいっぱいです。長いようであっという間だった二年間、培った力や経験、仲間との時間は、これかも私のかけがえのない支えです。本当にお世話になりました。